

279 268

▼ 77 ~ 14 ~ 256

▼ 8月13日 ~ 17日

▼ 北沢川の上の廊下 ~
岩苔乗越 ~ 祖父岳 ~ 水晶岳
~ 三俣蓮華 ~ 双天池 ~
鏡平 ~ 新穂高温泉

▼ 後藤隆徳 大孫子

8/13 三島 20:15
富士 20:37

14 甲府 12:07
大町 4:00
黒田ガウ 7:00
平渡し 9:45
平越着 10:00
出花 10:07
東沢出合 11:40
D元ワル沢 15:00
中ワル沢 16:00(由)

15 起床 3:00
中ワル沢 5:55
岩苔出合(中ワル沢) 9:00
華師沢出合 13:05

赤下沢出合 14:50
 五郎沢出合 16:45 (油)

116 五郎沢出合 5:30
 上の二俣 7:10
 岩菅乗越 8:45
 祖父岳 9:10
 水晶分中 10:00
 水晶小中 10:35
 水晶岳 11:00
 分岐 11:50
 鷲羽岳 12:50
 三俣山岳 13:35
 三俣蓮華 14:35
 双六池 16:00

117 起庄 3:00
 双六池 5:10
 鏡平 6:10
 左俣川 7:40
 ワサビ平 7:50
 新穂向湯東 8:50
 高山行八又 9:00
 名古屋行高山線 11:15 (3行)
 名古屋 15:00 全線終
 三島着 17:45

1. 甲府より大町 黒田まで 木ノ津
島と一緒だった
2. 黒田は水が少しかった。
3. 東沢出合までの道は長いが割合
良く歩けている。
4. 平の渡しは無料、快馬石渡し
5. たゞし平の小屋の少し先の道は木ノ津
は西へは少し運重
6. 東沢出合は山溪でみたところとは
全然違う。
7. 初日は口元の川までの予定だった
が、途中で雨が降り中の川に
まぐらした。
8. 乙までにはいたるところは最高に腹
までの渡し流れた。
と申すほどはありませぬ。
9. 中の川にまぐらしたにはかなりの
下を極めた。
10. 中の川に付近はたまたま河原と
化しては川の(想像)黒部
の部下というイテシには程遠い。
11. とうとう表銀座(カミ)側から
の南ホーカがもたらさぬ。
12. 特に琴師沢の出合はもたらさぬ
とる。
13. 以前はこの琴師沢の下崩壊によ
つて黒部がせき止められ「黒五
川」という川があったらしいが、
今はない。

14. 下の黒じりカ、上の黒じりカは⑤、2位の
程大きくなかった。
15. 上の黒じりカの付近の浅瀬にイナガ一
匹いたがにかかるとしよう。
16. 金作谷出合の深い所はツリと釣りか、一
匹もナシ
17. 岩窟小谷は思った程大きい沢になかった。
2の辺りまで沢を下り10-15と会う。
2.3の10-15あり。何となく2匹の魚
は真向の土合。
18. 立岩も⑤の程の所はたか「簡単に通過。
19. 立岩を⑥としばさくして浅瀬にいたイナ
ガをみつけた生け籠りにする。お盆であった
が、せめて一匹位はとす。腹のタビを出して
塩ツケとする。24cm位のもの。
20. E沢、D沢付近で釣人二人に会う
が全然ナシとアコト。エサはミミズ。
私達も大橋が毛バリ、私がかみミミズで
やるが全然ナシであった。右の大橋の
所の一回当りかき。時向がもた
ないで釣もあかざりではない。
21. 赤井沢出合付近は大変に美しい。本
のイナガはツリニかみさる。
22. この付近の深いとこで私がかイナガを
一匹つり上げた。こたへ今晚一匹つ
食わさるのや。合掌堂。
23. 今晚は五郎沢出合で三匹。大橋
はとこ三匹の星。ミミズが
二人でないうつた。

24. " 女んな 巨大な奴の懐中で
粉のイヤの星の下で 冠松は
鼻をかくて野学するのだ "

宇生屋星 冠松次郎にある詩

25. 私達他に 210-71 あり、しかし
910-71 は私達と一緒に入った。
11 ので (先に入った) 私達へも
少し早い。

26. 翌朝一番の山登。岩が乗取
です。標高 2300m 付近でも
浅瀬にはいるより上を回った。

27. 祖父平右衛門の景観は美しい。

28. 岩が乗取。川の流が少し
水が流が少ないうえだ。(一番
上流の二俣。右の方が水量も多
くスツクリの川が地蔵の他の
谷村では左俣になっている)

29. 沢で五俣の予定であったが二俣
で終る。

30. 全体として少しも足りたとはあった
。しかし昔の黒部はこんなもの
なかったと思う。藪の水路で河
底から上がり廊下村の所がほ
とんどこの下になったしほっている様
だった。

31. 導師沢小屋から上流は水倉の足跡
もみみずが美しい黒部という印象
だった。